

# 「ふるさとウオーク新聞」

一年 原田 珠宇

## 藤樹記念館

「藤樹先生の人生」

藤樹先生は、九歳の時、親のもとをはなれ鳥取の米子に学問を学びに行きました。そして二十七歳の時、地元に戻りみんなに学問を教えました。

そして、藤樹先生の教えを聞いていた人達も、やさしく、心の広い人に育ちました。



記念館で、武田基裕先生の講義を受ける

## 藤樹書院

「藤樹先生の教え」

藤樹先生は、「致良知」（ちりょうち）、「孝行」、「知行合一」、「五事を正す」などの言葉を残しています。

**致良知**：…だれでももっている美しい心をいつもみがき続けることが大切だということです。

**孝行**：…周りの人を大切にし、助け合うことです。

**知行合一**：…学んだ事と行動は同じにするといいことです。

**五事を正す**：…顔つき、言葉づかい、まなざし、よく聞く、思いやりを大切にするといいことです。

そして、藤樹先生は「孝」や、「続く」という言葉を大切にしていられっしやいました。「孝」は、親だけでなく地球の資源にも感謝するという意味だそうです。「続く」は、自分の命、周りの人の命があつてこれからも続くという意味だそうです。

## 感想

私は、ふるさとウオークに行つて、知らなかつたことをたくさん学ぶことができました。

特に、藤樹先生の教えが一番心に残っています。「孝行」や「五事を正す」など、自分のためになる言葉を知ることができました。他にも、自分のふるさとについて知ることができて良かったです。

……………

## 「ふるさと新聞」

一年 高木 笑梨子

## 中江藤樹先生の教え

近江の国（滋賀県）で生まれた中

江藤樹先生は、郷土の人や藤樹書院に集まつてくる人々と共に、人間として大切な道を学び、その道を実行し、近江聖人とたたえられました。先生は次のようなことを教えてくれました。

## 致良知

人はだれでも「良知」という美しい心を持って生まれています。この美しい心は、だれとでも仲良く親しみ合い、尊敬し合い、認め合う心です。

ところが人々は、次第にみにくいいろいろな欲望が起きて、つい良知をくもらせてしまいます。

私たちは、自分のみにくい欲望に打ちかつて、良知を鏡のようにみつき、その良知に従い行いを正しくするよう日々努力することが大切です。

## 五事を正す

五事とは「貌・言・視・聴・思」を言う。

**貌**（顔つき）愛敬の心をこめてやさしく和やかな顔つきで人と接しましょう。

**言**（言葉づかい）相手に気持ちよく受け入れられるような話し方をしましょう。

**視**（まなざし）愛敬の心をこめて温かく人を見、物を見るようにしましょう。

**聴**（よく聞く）話す人の気持ちに立つて、相手の話を聞くようにしましょう。

**思**（思いやり）愛敬の心を持つて相手を理解し、思いやりの心をかけましょう。

他にも、「孝行」や「知行合一」があります。



藤樹書院で上田藤市郎先生の講義を受ける

## 「ふるさと新聞」

一年 大久保 美奈

## 中江藤樹

中江藤樹先生とは、村の人々のために努力したり、人として行うべきことを教えられたりした、とても家族思いな方です。近江の村で生まれ、九歳で親のもとを離れ勉学にはげました。二十七歳で、一人になった母のことを思い、周りに何も言わず帰り、村人や人々に「人としてつね